

2021年11月18日 中日新聞 朝刊
に掲載されました！

認知症 支援の関わり方は 西区 家族へのアプローチ講座



小粥正博院長の話を聞く参加者ら＝
浜松市西区の脳リハビリセンターで

浜松市西区の脳リハビリセンターで、「認知症の介護を考える 患者さんとご家族が救われるために」と題した講座が開かれた。介護

支援専門員（ケアマネジャー）二十五人が、認知症専門医の講義に耳を傾けた。たまゆらメモリークリニック（西区）の小粥正博院

長（五）が講師を務め、認知症患者や家族との関わり合い方について参加者にアドバイスした。小粥院長は認知症患者の家族に対する心理的なサポートが非常に重要と説明。「どうしてうちの母、父が認知症に…」と感じる家族が多いと前置きし、「『どうして』から『どうすれば』と転換することができれば、家族の介護に対する気持ちはぐっと楽になる」と助言した。居宅介護支援事業所いずみ（中区）の竹下雅恵さん（五）は「患者の家族に対するアプローチは難しいこともあり、とても参考になった」と話した。（山手涼馬）